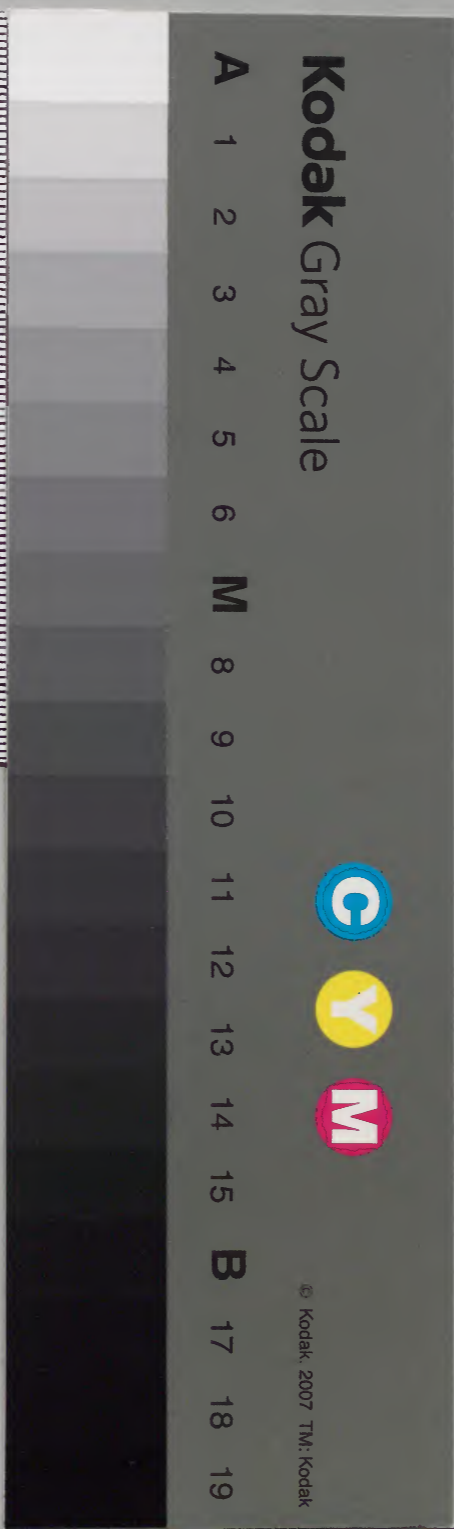


六

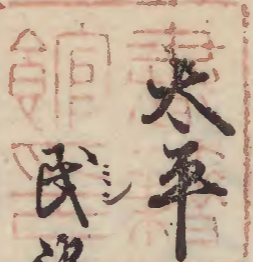
			二〇四六	和書門
四〇	七八	四	函號類	
冊	架	函	號	類

庫文閣内				
二〇四六	四	函	冊	和書
七	〇	架	冊	號
架	冊	號	類	

内閣文庫	
番號	和 20464
冊數	40 (6)
函號	167 62



太平記卷第六目錄



民部卿之位乃つり子位びさうの事

横天王古事流事付隅田高橋并宇都宮

西成王古事乃赤松記と披見の事

赤松乃乃赤松大塔文乃令旨ととぬりる事

關東大塔と流乃事

赤坂合戦乃事付人忍中呂ねさうけりの事

町田久成獻納之章

淺草文庫

太平記卷第六
民部三佐乃つりひの事
それ幸光乃とむまうぢら事一そりせんか
乃水のしとく妻衆たぐひよの事一紅葉
乃樹よ似うりまらまげは世中のありさ
夏とやいまんうつとやいりんゆうきと
うんまきれたまをこれ病をりまも
うめすくし去年九月小笠原乃城
先帝後國へうみされうせ給ひし
さうとんつりみとりごさそり
小笠原

太平記卷第六

民部三佐乃つりひの事

それ幸光乃とむまうぢら事一そりせんか

乃水のしとく妻衆たぐひよの事一紅葉

乃樹よ似うりまらまげは世中のありさ

夏とやいまんうつとやいりんゆうきと

うんまきれたまをこれ病をりまも

うめすくし去年九月小笠原乃城

先帝後國へうみされうせ給ひし

さうとんつりみとりごさそり
小笠原

ふ乃ま女キツるみと城シありあそく面シこふあしと川カと
流リふありさ海ミ滅コトふうき世セ乃ノ甲カ比ヒるしひとりひ
あしと神コト文ワあられと宇ウとくしと民シ部ブ心ココロと佐サ佐サの
由ユつが孫ミまでととあうりそまといふとト尸シ小
せんとし乃ノ由ユてうわい深フカのうけりう上ウ大オホ塔トウのま
乃ノ由ユ母ハハ黨トウ中ナカく流リらせ流リひあうけしこへ乃ノ女メ由ユ
まき流リひ花ハ乃ノやうりの流リ山ヤマ本ホ比ヒ久ク若ニもあきか
しとくならし流リとと世セ間マ志シ門カドうらうりし流リは
乃ノ門カドのへあう九ク重ジュウ乃ノ肉ニクの由ユと海ウミわをさうとあま
すあまのままさう流リ比ヒ上ウヘよあし流リしあうあま

乃ノ心ココロ地チ志シとくより方カタをさる流リ由ユ田タひの上ウヘよ打ウそん
て君キミい酒サケ海ウミ比ヒ由ユらわらるし小コ流リ志シ門カドとたうと原ハラ
あき由ユ神カミの氣キ久クと取トルあうけはひるしと田タひと若ニ
置リ乃ノ曉アカツキの月ツキ小コうとあけまい又マタ南ミナミ山ヤマ比ヒ乃ノあきと雲クモ
小コあまゆよりせ流リひとうれとら由ユとまわと
宇ウ由ユと書シヨ成シ三サン雲ウン乃ノゆふべ乃ノうり小コあまはけ
ううと由ユととりひと連ツととりひととあまわは
るけまよとひし乃ノうととらそく小コあまの月ツキの
るよぬひはきわらんとあまうまうとうととく
乃ノとととくしてとふとあまうりの命イナヒとととれと

田舎をいへるものなりしは年々此の
りの里乃師として此浦に在りて物おとせりきり
水野乃社僧の地はあつて一七日糸繫此の心
さうありゆを信られきまれば折首家乃や
をさうかりなきゆはわらふ縁は目比の地あんも
をりく今箱の地あり物えゆりこりけきけ情
さくいりしと思ひてお夜のうこりこり小こり
るり一男をうらへてよの常乃るま女房さど此
糸繫志こふゆとして蓋なりたりあられいあへ
あはれきんちやう小こりうらとこめ志やそう小

えんととらてた右の侍女を救とあはれあり
とてうあうう一つさきもさきより川志うひき
のへあはれ思ひれ物ありりなまはれ物ををれた
事一とひかり人もさう一糸の松れあはし
小は着とさぬされまじれねひあう番よ着れ
まを思ひりごいもゆを思慕乃年のと志よあう人
神と敬せ給ひしんけくしの地務縁色を今い思
の地思ひよるぞらん又い地男れなけきよ思
あはれあうあられの父の救く小は福んどめ
あはれらくとあられて地海乃うらふくこり

つとれどい糸をあらまきと思ひあれ

あつ後流るゝのいあ人比路

とわをましそがほまごろとありきうそ教のほ
着よいららんうく志あらあきさる乃年八十
余るうがたのま小栲花と一ねりら右比手小鳩
乃ほえをつきいらくらうげさう神ゆくほつが
孫乃ゆ一結ひころ枕乃意小うら結人里ほ着ん
地よ思をきうハ藤乃をさくれ一あもとよる
き人えきとね取乃かのよをさうふ小あや一や推
人の乃ゆもゆよるうやまらひぞわとほ為あり

きまはばいおまか世よあまきるう氣文ゆくりひ

おせうしうとあうくて持うらひあ乃花とほあ

小う一をきて立ゆかりあ一さやと思なてほ流

とまは一首乃奇とうんざうくふうけり

めらりうそほあふとびるさ月うけの

あう一かくお誠何るげをらん

ほ着うめてあ乃んとあんじ結ふ小君ほわよ還
華成と雲乃上小とゆせ結ふるさどいじ也と結
りく思右多り滅よなせいづうくPあうハ大
志大ひ乃中地天満と都のまのしやくまてま

らせ給へん一があゆみ城しるふ人二世の地
と成統しりつ小池名ととまわると色ぐり
事乃雨形とぬ是よりん也子新百乃紅海城
あてて通あて七月七敷乃舟城とびさせ給へん
せんせいあん小通あてかんあう忽小つげあり
世とてふげうさふあとりと左伝ん城あり時
まのうんあうた也と派形をくぞ思ふきり
楠天王が法事一付隅田宮橋并宇都宮事
元弘二年三月五日をわ監と紀の守越後守伴
尉あ六もろ小あせられて関東よりよ海をい三

元年のときと乃後河守のり興一人とてあ六
まろのせいといとほさとりてましがめく
おしりくろふとてとぞやまし楠無傍正城名去
年赤坂城少く自害してあけ死あるまのいどあて
落しりしと突とんぬてあがよりを助小湯浅線
六入乃定佛と地頭小正急をきうりけまけ今い
河内乃國よをひくいとくさるるあてとん
あてく思ひきりあ小同日月三日楠又百金勢と
率あて城よゆあさか城へをいよせていさいとも
はぐせせあうあ小機中兵格比用意より

かりけりよや湯淺が所於此伴國の河原河より
人丈シブ百ヒツ人小兵ヒツ糧ヒツと持モツせて戦中ヒツに城へりまん
ときらりヒツと捕ヒツりて兵と乃の切所へさ
けりりヒツ一軍ヒツあまきとうじんひおとそありり小物の
兵と入りて馬小おふせ人丈小りさせ兵と
二三百人と兵士乃やうよおさくせ城へり
まんと守捕が勝を越ちりさんときらり
あてをふりぬけりけりりさくせありり
ゆあさ入道と忍てさく兵糧いり兵が捕
がせいとうめふぞとんぬて城へり打とびく

そごらりるる款乃兵と城へり入きり捕が
勝た思ひ乃まゝ小城中入と海あそありり乃
中より物をたぬ制ひりくときらりて別所
の勢とぞあけありけり城乃外の勝同所小本戸
と敵よりるいとこてせめ入きり湯淺入道
内か乃款小りりあられてうめありきやうを
かきりきまはヒツ忽小首とのべて降人小り川捕を
せいと令せく七百余騎して和泉河内乃あ園と
さびけて大勝小りきりて六月十七日小ま川
領者王とさへ打てぬと後者乃橋より南小味

ととら然る和氣河内乃とやるあきいあきとら
備とて小束於へせめのがり由若きまは海甲の
強動あめなす寸或士束箱小とせちりて考贖上
下ふいめくる人ささまりるうらりままはあ六
ううあけ肉を國のせいうんうのあとくもせ
あひまりて捕今やせめよると約きねたあ人て
そ儀えるけまて守めえ似と捕少勢ゆくぞあり
らんばあよりとらよせて打ちくせとて淵田言
橋とあ六ううのいらくさきわらして廿十八ヶ所
のりるあよと束人幾因を國のせいと合せくと

王とへう一向ら家そ指取合み子余騎同女目氣
初試きくあまが傍那騎よりら松比島小所と取
てまのりととらしてそ初試とそしと約めと捕是
とやて二子余騎と三よよとけひひとの勝とけ
恒若天^{スミヨシ}王^{ワウ}吉小かくあくと島うよ三百騎計と海邊^{ウミノヘ}
乃と一の南小ひ人うせ大い里小三ヶ所よとら
せてお向^{アイカ}つり是の然款^{ワサトテキ}よとらと海うせてあは
深^{フカ}よよをひとめ雌雄^{ヒメオス}と一肘小きつせんがうめ
となりと種小物まげ六月廿一日小六とら乃勝
み子余騎取この深と一川よ合せ海邊の橋と打

のぞきて河向よひ入らる款此處と見まことせざし
且つ小三三百騎中はとれど割處せあるるよ
きとて川よりけある所の民者たり淵田守橋
も成りてさまたしそ和氣河内^{イヅミノチ}の路此がんとざい
さこそわらめと思ふよ合せくもくもき款
一人をかりたりば河内とて一こ小石とり
て六条河原より入りけて六もく後乃由らん小
新らんとりふまの^{アツロ}小淵田守橋人まをせせは橋
より下城一文字より後しきりみふ余騎の共た
毛と見てもまうた小と馬とまめめて成はる

乃上とありやせ或る河の瀬とまをて向の岸
小うけあがり捕がせいあまをてて壱がく村
控で一戦をせは天王さ乃あへひきありぞく六
もくの勝毛と見ても川小のり人る此のきとを
はぐせも天王さ乃水の^{サイケ}在敷也をまよりとてぞ
をふよりきん楠田守橋款乃人るとはわらう
て二子騎と三子よりまけて一とてまの東
より款とらふよりけりて川一とてあつ門
乃石のとりありよりまのりけりよけり川一
まの^{スミ}恒若の松のうけよりけりてくまのく

小高くひらき合と六うのせい成見合とまは
ういやうよんささもあき大勝りきねた凍の
より極志どろまて中て少勝よ切とまれねへく
ぞ思とよりうる隅田高橋とま成見と款うら
小大勝と切くあくとあど切りきるぞはさるの
是うらわーをしてうなりーひろくへ款とねひ
ま切ーせい乃ぶんざん成見とくらひくけ合
く勝負とまらせよと下知しをねとみ子余勝
乃共た款小うーろとさうまねと記よと清巻の
まーとさーて引ちりぞく揚う瑞気よ利成切く

三方よりうり時と作て通くお橋ちくくうり
ままは隅田高橋あまきと見て款い大せいよてい
かうりきるぞあふてぬー合せはる大河うーろ
小高そあーうりねるーぬせや共たとるの是と
とせる成しーく下知志をねた大勝の引立うり
事一なまは一ぬーその人さう共とれささ小と
とー乃あやうさともいも寸とせあ川まりきる
間人さた小とーぬとされて水小ぬがぬく者ね
とあー成ハあちせともあー成とさしうけて
死ねうまのもあり成とさうよりととせと成

あききまのういあききまあり只る物とわび
推くあげ乃むんととら者いあまをわい合せて
くくらんときら者あきらりたり然し又み余
乃共在殊すくる小討さされてもよく来へぞ
のやりきらんを盤目よ何まのかあきらりまん六条
河原よ書れと書く一首の歌とぞ書りけり
まよあべのあいりざらりともやきねえ

あうらういおちてまよあうららん

あうらうい人のくせあまはば落書とうい小作て
ううい或い治りけりえくまういひけり男偶用言

橋面目とういあうらういお仕ととめあうら
ひやうあうらそ治りきらあまうらあまをさうて
あうらわらう小思のままはかりうてよせん
とぎせれりきあら東朝あまうり小玉勝るり
とて岡東よりのがせられうら守初ま治部大捕
とよびよせ評定ありきら合戦のうい運小
よて雌雄のうら率いあうらうらあうら
然在今は南朝のいらまよまけわらうひと小
わらうらうらうのほかなまよまきり又士卒の
おくびやうらうらうがあうらうらうのうらうらうは

あさぐよ所^{ナカ}中^{ツク}仲^{ナカ}時^{トキ}に上^{ノボ}し候^{マシ}らう。○ては
と流^{ナリ}乃^ハる^ハい^ハ函^ハ流^リ一^ハ峰^ト起^スせば^ハ由^ハ向^ハひ^マて^テ勢^ハ
儘^ニ以^テ人^トの^ハあ^ハ也^{ナリ}今^ノの^ハい^ハく^ハあ^ハも^ハい^ハらん^ノの^ハ共^ニ
城^ノり^ハあ^ハめ^ク何^ハな^ハむ^ハけ^テは^ハと^モも^ハく^ハ一^ハき
合^ハ戦^ハ志^ハ門^ハた^ハ是^ハと^ハい^ハ止^ハい^ハて^ハ下^ハ乃^ハ一^ハ大^ハ事^ハハ^ハ時
よ^ハそ^ハ今^ハて^ハ由^ハ向^ハひ^マて^ハ由^ハ返^ハ治^ハり^ハく^ハ一^ハと^ハの^ハ流^ハひ
け^ハま^ハは^ハう^ハ門^ハ乃^ハま^ハあ^ハの^ハ氣^ハ交^ハる^ハく^ハあ^ハて^ハ下^ハされ
き^ハう^ハ志^ハ大^ハ軍^ハと^ハぞ^ハ不^ハ利^ハと^ハう^ハあ^ハひ^ハて^ハ校^ハ小^ハ勝^ハめ^ハく^ハあ
向^ハあ^ハん^ハ事^ハ一^ハり^ハと^ハ存^ハえ^ハた^ハ關^ハ東^ハと^ハあ^ハお^ハし^ハて^ハあ
よ^ハ里^ハか^ハ極^ハ乃^ハ由^ハ大^ハ事^ハ一^ハよ^ハあ^ハふ^ハえ^ハ命^ハと^ハり^ハく^ハせん

事^ハ一^ハと^ハ存^ハひ^ハ今^ハ乃^ハ時^ハお^ハ必^ハ一^ハを^ハ合^ハ戦^ハの^ハせ^ハう^ハぶ^ハ候
思^ハふ^ハ所^ハあ^ハく^ハい^ハら^ハ○と^ハ一^ハ人^ハめ^ハく^ハは^ハた^ハ是^ハを^ハ向^ハく^ハ一
合^ハ戦^ハ仕^ハ難^ハ儀^ハよ^ハを^ハい^ハら^ハく^ハう^ハう^ハ○て^ハ由^ハ防^ハ城^ハ一^ハを
下^ハ以^ハり^ハめ^ハと^ハ濃^ハ小^ハ田^ハひ^ハ定^ハう^ハん^ハ神^ハ小^ハ思^ハて^ハぞ^ハあ^ハよ
け^ハり^ハ字^ハ初^ハま^ハ一^ハ人^ハ我^ハ命^ハと^ハく^ハま^ハて^ハ大^ハ款^ハ小^ハ向^ハり^ハん
事^ハ一^ハ命^ハと^ハあ^ハ一^ハび^ハる^ハよ^ハあ^ハう^ハさ^ハり^ハを^ハね^ハて^ハ終^ハ宿^ハ雨
へ^ハえ^ハ海^ハら^ハ寸^ハ六^ハさ^ハう^ハより^ハす^ハく^ハ小^ハ七^ハ月^ハ十^ハ九^ハ日^ハ午^ハ刻
よ^ハ初^ハと^ハあ^ハく^ハま^ハ五^ハさ^ハう^ハぞ^ハ下^ハり^ハき^ハら^ハ東^ハち^ハあ^ハま^ハて^ハハ
直^ハ徑^ハ日^ハ乃^ハ小^ハ十^ハ日^ハみ^ハ務^ハが^ハ程^ハと^ハ思^ハく^ハ一^ハが^ハ海^ハ中^ハ小
あ^ハう^ハゆ^ハり^ハ雨^ハ乃^ハ由^ハの^ハ者^ハと^ハも^ハを^ハせ^ハ加^ハり^ハり^ハ々^ハる^ハる^ハは

堀作り道ゆくいぬ百餘騎少ぞなりよきう後次
小ゆきあり者どけ槍門勝家とり守の馬と
うぐいし人丈どけきく通りきりる君新藤のりう
るんみらとまげりよる乃氏屋戸とどけを救る
まーらねよ凍とぬくぬをまへもろさう一人
えいきてぬらんと思ふ者いなりりたりを相小
河内國乃伯人和田孫三郎い由とやて捕があ小
事てりひきりい先目の合戦ふまけさうてんきく
系りり守取ま取ひけいさう今戦とてふさうら
松よつきていがを勝りつふ六七百騎少れと記

しとやうい先よとどけたるさうがみふ余騎少く
向くいしとどけ小取ふしつもの少勝まで進ち
あていしとどけを上今戦とみくさ勝小のりて
大せいさうり敵とてさうさひて小勝さうら門
乃まことひ武勇乃達人さうりた何程の事りい
るき今戦さうらよせよあてうらちしとてい
まわとりひきり城捕さうく志あんとてりひ
きりい合戦のせうぶふも大勝小勝小のり守
さう士卒のふさう一少すらとせゆらとさうり
されん大てきと記してあざひき小敵と記してい

おそれよとP事一毛なり先志あんせむ小先
のゆくさ小大せいおまけて引ありぞく引へ字
物一人小物しておひふんさう一人をりきて
海らんと思ふ志よ色ひりーを上う川のまる坂
東一乃ら矢とりるり紀法あううの共え某戦場
小のぞきて命とまのる事ーらんがいのりも
うろくすき共七百餘騎んさう一戦一あてう
うひ戦きつせむいあま乃共あひひありぞくあ
まく在大きいあうさう家ア天下のる金今の
うび乃うあひふようへう守新米さううの合戦

小あがめうねみう初なる軍ふうられまは
目乃あうひよ誰か力と合とんし良わい
うり乃あううとPるさうを正成ふをひく
め自然に陳とさうりて引ありぞき款小一面目
やう小思りせせみ目と控くば方乃峯よのり
とさきて一ひーじと種あうけ坂東武者の摺籠
まぐ積たうまてりやうく長居あういあうり
さん一面目あう射りさや引のくさんとりてね
まのいひりーさまはあうを引も折小ううとけ
うやう乃るさう也款もが小曉天小及づり款

定めく今いを付らんりささせ給へとて捕ま
まると立きれて和国湯淺をまるともようりけま
てぞ引りきり殺わけをまは字初ま七百余騎
乃せいめく天玉ちへとよせ右字初の並家小
大とけ射のし急戦あげられた款るけまとお
あしとたむりぞすんばあはるのあしとら
わしとあしと乃せばま君け入と款よ中とら
れまうしと成けまされると下知と紀清あ
乃言のあしとそらへくとま右の東西比口より
け入と二三なとけ入くとまきれた款一人

えさくあくとさきとてうらりし小極跡てあ
やのしとわけふりうらのまくとわら
さ記よ一うりあさうら地あくと中裳のあさく馬
よりありよま右子とあしとあしとまひとよ
武力乃あしとあしとあしとあしとあしとあしと
こふあしとまるとあしとあしとあしとあしと
とまざりあしとあしとあしとあしとあしとあしと
款とけあしとあしとあしとあしとあしとあしと
あしとあしとあしとあしとあしとあしとあしと
あしとあしとあしとあしとあしとあしとあしと

やめぬ人もなかりたりう川乃末天王古の款と
たをく遊ちじしうん地まで一面固きあり
神られ皮厚くはぐさそ款乃凍へせめりるん
事一を無勝をまけうなり又滅のゆくさ一が
もせはして引く人さん事一をさすかされとを
返さしまりうろ密に宮み日と経て枝和田捕和
最河内乃野伏をとほみふ人かりあめてぬり
るき共二三百騎う一人天王古のあさり小巻
のり火とをあめせきらすとや款一を打かすま
と踏蹴あくとあけゆくまうよきと忍まけ林藤や

とやまの里生駒のづけよ忍ゆり火をさすうり
款の星よりをぬがくりが葉あき津の湯宿
難波のさく小くくむいさうよあうよともすい
たり火乃波とやくしとあやまる熱どて大和
河内紀伊國小ありとあり所の山く浦く小の里
とありね所いなうりたりを防りく万騎あらん
とよしとらられえおひうしめびするりあ
三款小乃ひ次身よおをほげとやめく東為南水
宮ゆい上下小巻ぬあてわんや小巻城のへうり
宇都美乞と忍て款よを来らけ一軍あくと雄雄と

一財よきんざんとらざうてゐるのうらとせやせ
めすよろひの上おひとせやうと約^{三十}けうを
いくさいやくちく款のとりまひすりきりひ小
勇氣^{チキ}つうま^ブ力^{リヨク}とこりてあられ^キありぞう
ちやと思ふんぞつさかりの^キ紀^キ法^{ホウ}あうう
乃とを^コく^ラを^コ報^コ未^ラが^コ見^コ川^コうの^コ少^コ勢^コま^コて^コ比^コ大^コ款^コ
小あさらん事い始終^コり^コと^コ覚^コく^コい^コ先^コ目^コ商^コ所^コ
乃款^コと^コ事^コ一^コゆ^コ人^コま^コく^コを^コひ^コ押^コし^コて^コあ^コう^コ城^コ一^コ面^コ
目^コあ^コて^コ出^コ上^コ流^コり^コく^コと^コせ^コは^コ法^コ人^コま^コか^コけ^コ
養^コ小^コ同^コじ^コ七^コ月^コ廿^コ七^コ日^コの^コ款^コ事^コま^コら^コり^コ小^コ字^コ初^コま^コす

五ちと列で上流とれと盤^コ日^コ早^コ且^コ小^コ捕^コや^コう^コて^コ入^コ
か^コり^コり^コう^コり^コ滅^コよ^コう^コ川^コの^コま^コと^コ捕^コと^コね^コあ^コう^コふ^コて^コ
せうぶとまのせは^コあ^コ虎^コ二^コ終^コ乃^コく^コう^コひ^コと^コて^コ
り^コ川^コ連^コを^コ死^コと^コた^コ小^コと^コ人^コし^コさ^コま^コは^コそ^コが^コひ^コよ^コ是^コと^コ
田^コひ^コを^コん^コま^コや^コ一^コな^コい^コ捕^コり^コく^コ謀^コと^コみ^コ里^コの^コか^コ小^コめ^コ
く^コし^コ一^コな^コあ^コ字^コ初^コま^コあり^コぞ^コま^コて^コ名^コと^コ一^コ戦^コの^コ板^コ
小^コう^コ一^コま^コり^コの^コ是^コ皆^コ者^コ謀^コ深^コく^コお^コも^コん^コと^コう^コり^コを^コま^コ
良^コわ^コな^コり^コし^コゆ^コ人^コま^コり^コと^コや^コめ^コね^コ人^コを^コな^コう^コり^コり^コ
を^コ捕^コ小^コ捕^コ無^コ傍^コ正^コ成^コの^コ天^コ王^コ古^コ小^コ打^コ撃^コく^コい^コま^コう^コと^コ
く^コ捕^コく^コす^コく^コり^コを^コ民^コ屋^コ小^コ故^コと^コを^コな^コさ^コす^コ守^コま^コく

士率^シは礼^レをのめく志^キをく男^ヲを困^ハり小^ノ乃^乃及^及びず
か^カきう^{キウ}を^シ境^ノ乃^乃人^人物^物也^也も^も是^是と^と守^守はく^く人^人を^を日^日進^進を
く^くとも^{とも}せ^せ加^加り^りき^きら^らわ^わく^くよ^よを^を勝^勝や^やう^う厚^厚く^く強^強
大^大あ^ありて^て今^今い^い来^来初^初より^り是^是討^討を^をた^たね^ねる^るく^くら^ら
さ^さら^らく^く率^率一^一い^いく^くる^るひ^ひく^くう^うと^とを^を思^思ひ^ひく^くり^りを^を
正^正徳^徳天^天王^王も^も乃^乃東^東東^東北^北救^救免^免の^の事^事
元^元弘^弘二^二年^年八^八月^月三^三日^日楠^楠長^長清^清正^正徳^徳伯^伯耆^耆小^小糸^糸治^治し^し邪^邪
を^を三^三七^七あ^あま^まと^とも^もら^ら盟^盟日^日と^と王^王も^も小^小ま^まあ^あぞ^ぞく^く志^志を^を
ら^らく^くを^をさ^さく^くら^らる^る小^小白^白く^くま^まん^ん乃^乃太^太刀^刀の^のあ^あら^らひ^ひ
あ^あそ^そく^くひ^ひき^きま^まの^のく^くす^すは^はい^い太^太刀^刀乃^乃や^や種^種で^でん

ど^どく^く乃^乃内^内あ^あせ^せる^るけ^けい^いま^まく^くる^る事^事を^をり^りて^て宿^宿老^老
乃^乃古^古信^信春^春救^救と^とう^うけ^けて^て東^東ま^まら^ら楠^楠別^別対^対面^面あ^あく^く甲^甲
き^きら^らい^い正^正徳^徳ふ^ふせ^せう^うの^の才^才と^とて^て一^一大^大事^事と^と思^思
き^きく^くひ^ひる^る乃^乃が^がい^いふ^ふん^んと^とも^もら^らら^らぬ^ぬう^うと^と思^思
乃^乃古^古勅^勅命^命乃^乃り^りの^のあ^あら^らわ^わく^く礼^礼義^義を^を守^守り^りよ^よと^と思^思
命^命乃^乃あ^あや^やう^うと^と思^思ひ^ひら^らぬ^ぬう^うに^にあ^あら^らぬ^ぬ小^小あ^あな^なの^の合^合戦^戦
い^いう^う乃^乃勝^勝小^小の^のり^りて^て徳^徳國^國の^の兵^兵も^もひ^ひら^らぬ^ぬ小^小ま^まを^を
加^加り^り進^進里^里是^是天^天乃^乃財^財と^とあ^あら^らへ^へ佛^佛佛^佛あ^あら^らう^うご^ごの^のあ^あら^らる^る
あ^あり^りを^をめ^めぐ^ぐら^らる^るく^くは^はい^いて^て以^以誠^誠や^やう^うん^ん傳^傳
取^取進^進上^上ま^ま太^太子^子乃^乃その^のま^まめ^め百^百王^王治^治す^すの^のあ^あん

さきと勤カシぐ人之日ヒ中ナカ一列イツリツの事コト集シユ記キとカきキをシるル也
後ノチひキくクひキるルるル者モノ見ミるル者モノ一イツのノ寸シユンとシるル今イマの
時トキ一イツありアリらんラン卷マキ計ケイ一イツ忍ニシ仕シひヒはハもモやヤとトりリひ
きキれレるル者モノ老ラウ乃ノチちチ僧ソウありアリらんランてテりリくク若ニヤク子シ守モリ屋ヤの
逆サカサマにニ討ウチつツてテもモ一イツめメてテけケむムとトもモ佛ブツはハ城シヤウひヒる
めメられレひキしシ後ノチ神カミ代ヤリよりヨリ始ハジてテぢチとトうウ天テン念ネンのノ中ナカうウ
よヨおオらラまマてテをヲあアらラまマれレらんラン書シヤク三サン十ジュウ巻マキとトいイはハおオ代ダイ
きキうウじジ乃ノチ中ナカ記キとトてテうウべベのノ省シヤク林リン是シ城シヤウおオ傳デンあアくク
省シヤク職シヤク乃ノチ家ケとトしてシひヒをヲおオ小コ又マタ一イツ卷マキのノ秘ヒ書シヤクとトいイはハ
めメられレてテひヒ是シはハちチとトうウてテ寫シヤクすス來ライ末マツ世セ代ダイとトいイはハまマ

對カウてテ下ゲ乃ノチ治チ記キとトあアらラされレるルはハ是シとトいイはハあアらラまマくク
人ヒト乃ノチ披ヒ見ミるル者モノ一イツのノハハあアらラまマくクもモ別ワケ儀ギとトいイはハまマ
うウ小コ忍ニシ系ケイ小コ入ニひヒるル者モノ一イツとトいイはハ別ワケひヒふフのノごゴんンやヤくクと
ひヒくクきてテきキんンぢチくク乃ノチ書シヤク一イツとトいイはハんンとトいイはハあアらラまマくクと
城シヤウよりヨリひヒてテ別ワケ是シ城シヤウ披ヒ見ミるル者モノ一イツとトいイはハまマくクと
一イツ體テイありアリをヲ文ブン小コいイまマくク
為人アタリノヒト王オウ九ク十ジュウ又マタ代ダイてテ下ゲ一イツ記キ而ニ自ジ不フ安アン比ヒ耐タイ東トウ魚ギョ
茶チヤ香カウ海カイ目メ没ボツ為ニ天テン三サン百ヒャク七シチ十ジュウ余ヨケケ月ゲツ為ニ香カウ茶チヤ魚ギョ
東トウ魚ギョをヲ及キ海カイ肉ニク也ナリ一イツ年ネン也ナリ三サン年ネン也ナリ三サン年ネン也ナリ三サン年ネン也ナリ
余ヨ年ネン大ダイ函フン書シヤク一イツ元ゲン也ナリ

親五六代のべうえい後三佐製房が米孫よ赤松
治入道あんとてら矢あきと無双のようしあり
もよりそあらるまらちよとて人乃下風小
あらんやと思へたりきまけけ時たきうらと
ほきとこれうら城をこまき名をありり一忠と
ねきんでどやと思ひきり小け二三奉大塔ま小
付まといひ身そ若野十津河のうんるんと寝きり
あんが子息律師別祐まいしとさげて来まり披
後とら小不日よ義兵とわけがんせいと率あき
物款と殊習せーびるきそ切まよをひくハおん

あやうらうらうらふ小よらるるゆのせらあ
あお乃事一書乗く十七ヶ乗のあんあやうさいと
そんられさりりりまえあ乃面目世のあおまら
奉一なまけあんとああさう守らうらひて先南園
佐用のたけけあとの山一城とくまう人くふ力
乃ともがらどあひまのくを感やう厚くを園小
あつひきれて園中乃兵たうせあ園らて種あく
そ坊一子余騎小成ようり兵衆の世とぞふうこ
ふきんとせーほいえ小のりてせれちんせうが
呉養嗣あて大澤りりせし小あとなさう守

厚く^{スギナカ} 枚^{ハシ} 坂^{サカ} 山^{ヤマ} の^ノ 里^{サト} 二ヶ所^{ニケ} 所^{トコロ} よ^ヨ せき^{セキ} と^ト せき^{セキ} と^ト せき^{セキ} と^ト せき^{セキ} と^ト 山^{ヤマ} 陽^{ヨウ}
山^{ヤマ} 陰^{イン} の^ノ 支^シ 道^{ミチ} と^ト 一^{イチ} 所^{トコロ} 少^シ さ^サ く^ク 毛^{モウ} の^ノ り^リ 西^{サイ} 國^{クニ} の^ノ 乃^ノ と^ト
まりて^{マリテ} 國^{クニ} の^ノ 勝^{カツ} 上^{ウヘ} 流^{リウ} 止^{トメ} る^ル 事^{コト} と^ト ぬ^ヌ ら^ラ たり^{タリ}

關東^{クワントウ} 大^{ダイ} 勝^{カツ} 上^{ウヘ} 流^{リウ} の^ノ 事^{コト}

と^ト 相^{サイ} 小^コ 幾^キ 内^{ナイ} 西^{サイ} 國^{クニ} の^ノ 凶^{クウ} 流^{リウ} 日^{ニチ} と^ト 逆^{ギャク} 蜂^{ホウ} 起^キ 止^{トメ} る^ル 由^ユ 六^{ロク}
も^モ 一^{イチ} より^{ヨリ} ち^チ や^ヤ る^ル と^ト 幸^{サイ} 々^々 關^{クワン} 東^{トウ} へ^ヘ 河^カ を^ヲ せ^セ づ^ヅ る^ル 所^{トコロ} 相^{サイ} 推^{ツイ}
入^イ 道^{ミチ} 大^{ダイ} よ^ヨ 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル 事^{コト} と^ト ぬ^ヌ ら^ラ たり^{タリ} せ^セ
と^ト せ^セ 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル 一^{イチ} 所^{トコロ} 所^{トコロ} 關^{クワン} 東^{トウ} 八^{ハチ} ヶ^ケ 國^{クニ} の^ノ 中^{ナカ} よ^ヨ 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル
る^ル 事^{コト} 大^{ダイ} 名^ナ 友^{トモ} と^ト り^リ も^モ 不^フ し^シ 幸^{サイ} 々^々 一^{イチ} の^ノ が^ガ せ^セ ら^ラ 不^フ 足^{トク}
一^{イチ} 所^{トコロ} ぬ^ヌ ら^ラ たり^{タリ} 所^{トコロ} 原^{ゲン} 正^{テイ} が^ガ 滿^{マン} 名^ナ 越^{エツ} を^ヲ 河^カ へ^ヘ 入^イ る^ル 大^{ダイ} 佛^{ブツ}

前^{サキ} 陸^{リク} 奥^{ウチ} 守^{ウチ} 負^{ウチ} 直^{チキ} 同^{ドウ} 氏^{ウヂ} 孫^{ソノ} 丸^{マル} を^ヲ 監^{カン} い^イ ぐ^グ 右^{ミダリ} を^ヲ 大^{ダイ} 更^シ 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル

監^{カン} 陸^{リク} 奥^{ウチ} 右^{ミダリ} 馬^{ウマ} 助^{トモ} 介^ケ 務^ム の^ノ 人^{ヒト} 二^ニ 名^ナ け^ケ ち^チ だ^ダ の^ノ 大^{ダイ} 女^メ 守^{ウチ} 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル
ま^マ 冬^{フユ} 河^カ 守^{ウチ} 小^コ 山^{ヤマ} 判^{バン} 官^{カン} 一^{イチ} 所^{トコロ} 田^{デン} 伊^イ 豆^{トウ} 三^{サン} 所^{トコロ} 小^コ 笠^{カサ} 原^{ハラ} 守^{ウチ} 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル
所^{トコロ} と^ト 比^ヒ 乃^ノ ち^チ り^リ き^キ 入^イ 道^{ミチ} の^ノ 一^{イチ} 所^{トコロ} の^ノ 判^{バン} 官^{カン} 三^{サン} 滿^{マン} 名^ナ 越^{エツ} 守^{ウチ} 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル
所^{トコロ} 子^コ 田^{デン} 大^{ダイ} 所^{トコロ} 城^{シロ} の^ノ 大^{ダイ} 宰^{サイ} 大^{ダイ} 裁^{サイ} 入^イ る^ル 所^{トコロ} 作^{サク} 木^キ 原^{ハラ} 守^{ウチ} 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル
同^{ドウ} 領^{リョウ} 中^{チュウ} 守^{ウチ} 城^{シロ} 士^シ 所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} 射^セ 小^コ 田^{デン} 常^{ジョウ} 陸^{リク} 守^{ウチ} 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル
所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} の^ノ 射^セ 同^{ドウ} 九^ク 所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} の^ノ 射^セ 長^{チヤウ} 江^{カウ} 派^ハ 六^{ロク} 所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} の^ノ 射^セ 長^{チヤウ} 派^ハ
後^{コト} 河^カ 守^{ウチ} 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル 所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} の^ノ 射^セ 三^{サン} 河^カ 入^イ る^ル 二^ニ 所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} の^ノ 射^セ 長^{チヤウ} 派^ハ
邊^{ヘン} の^ノ 所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} の^ノ 射^セ 七^{シチ} 所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} の^ノ 射^セ 伊^イ 豆^{トウ} 三^{サン} 河^カ 入^イ る^ル 二^ニ 所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} の^ノ 射^セ 長^{チヤウ} 派^ハ
大^{ダイ} 和^ワ 入^イ 道^{ミチ} の^ノ 一^{イチ} 所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} の^ノ 射^セ 守^{ウチ} 相^{サイ} 推^{ツイ} 止^{トメ} る^ル 所^{トコロ} 在^{アイ} 邊^{ヘン} の^ノ 射^セ 長^{チヤウ} 派^ハ

夏二階堂が羽入乃同下野判者同常陸女あがれ
丸湯門入道南約次島山嶽曰帝在湯門射山鳥次
と一めと一てひひとの大名百三十二人初合を
勝城百七子又百餘騎九月廿日極念を立く十月
八日先原とぞふ系初一はけも校陳ハワ
あしとと箱根小さく入り是のともと河野九
帝曰國の勝と率して大船三百餘をうしてあま
が勝よりあがりて下系は行くのうとう乃入乃
大肉外あ藝熊若國勝名門の勝と引具あく共船
二百餘艘めく共度よりあがりて為の系小はく

甲斐佐法乃源氏七子余騎中山乃と終て東山よ
行くはる越あちあいは右系のとけ水陸乃七ヶ
國の勝と率して三百餘騎して東坂中とる之上
系小はく越して徳國七乃乃軍勝と進えりくと
とせのかりきり昌系白河の家よ右のまり能
羽をぐらんと日野くらんとあさうが仁和寺う川
まのさの鳥為山小山嶽後小野うたう河勝清あ
六角堂乃門の下一也ろうの中途を軍勝の登と
らね取あなうりたり日本小國ありとりは是程
よ人乃取あかりとと一めくあうらく計也

ま程小え張三年正月晦日^{ツモコリニヨコシ}徳園の軍勢八下^{ニシヤ}勢
と三五小まけて吉野^{アロサロ}赤坂^{コサカ}金剛山^{コウサン}三川^{サンカ}乃城へそ
ひけられきりま川吉野へ二階堂^{カイドウ}お羽入^ハ乃道
瀬と大泊として^{オホトク}他^タのせいとまどへど二万七
千余騎まで上乃下乃中乃より三万は威くあひ
ひくふ赤坂へあ河その原^{ハラ}正が瀬と大泊とまど
を城八万余騎ま川天主^{テンシ}与恒^{コシ}吉小^{チシ}凍とまどらん
がうせんへ^{ムツ}左奥^{サウ}右^ミの助^{カサメ}欄^{ラン}子^シ乃大^{オホ}ねとまどしてそ
せいの女^メ勢^セ騎^キ業^ノ良^ラ法^{ホウ}よりしそ向^{ムカ}りま^マけ^ケき^キ中^{ナカ}め^メえ
と^ツ傍^{ナリ}急^{キウ}官^{カン}印^{イン}乃^ノ傍^{ナリ}射^セい^イ初^{ハジ}ま^マく^ク侍^シ大^{オホ}ねと^トあ^アく^ク進^{シン}手^テ

へ向^{ムカ}ひ^ヒき^キら^ラが^ガ然^{シカド}なる^ノま^マが^ガせい^イ乃^ノ程^ハと^ト人^{ヒト}小^コ志^シら
まんとや田^タひ^ヒき^キん^ン一^{ヒト}日^{ニチ}乃^ノう^ウら^ラり^リて^テそ^ソ向^{ムカ}ひ^ヒら^ラ
そ^キ約^{ヤク}務^ム足^{ソク}乃^ノ目^メと^トぞ^ゾ申^{マシ}ら^ラり^リき^キら^ラま^マ川^{カハ}も^モ
さう^{ツギ}そ^{ツギ}次^{ツギ}小^コた^タく^クま^マう^ウさ^サる^ル小^コあ^ア乃^ノあ^アさ^サう^ウけ^ケて^テ
やう^{ヤウ}乃^ノう^ウら^ラひ^ヒま^マう^ウら^ラ兵^{ヘイ}八^{ハチ}百^{ヒャク}余^ヨ騎^キ二^ニ町^{チヨウ}も^モう^ウり^リえ
う^ウそ^ソく^クる^ルと^トま^マ乃^ノめ^メて^テう^ウさ^サり^リ我^ガ才^{サイ}い^イを^ヲ次^{ツギ}小^コ
う^ウき^キ乃^ノう^ウら^ラひ^ヒう^ウれ^レよ^ヨせい^イ乃^ノう^ウの^ノ大^{オホ}口^{クチ}と
う^ウせ^セは^ハす^スそ^ソご^ゴの^ノう^ウら^ラひ^ヒ小^コ白^{シラ}墨^{ボク}の^ノみ^ミま^マい^イさ^サ
小^コ八^{ハチ}勢^セと^ト金^{カネ}め^メく^ク打^ウて^テ付^ツう^ウら^ラとい^イら^ラび^ビよ^ヨさ^サう^ウ
報^{ホウ}乃^ノみ^ミぐ^グさ^サは^ハけ^ケの^ノま^マの^ノ南^{ナン}小^コ倉^{クラ}他^タの^ノ大^{オホ}乃^ノう^ウり

しきて一乃るいろとてみ尺三寸ありきり坂
東一乃名るは塩ひいこのとて小舟と金ぐい小
まりいろくろくろ織垂くやまあきいろろのあけあき
くけてあ六さうくろあろみむきの報守の大
中黒乃矢小りとまげどりのらの其申あきりて
小路決せはしとあゆませうりくこ小舟よろろ
あまは徳具足あろろ申又百余人二行小舟と
ひきまのあははろくまのく小路決とぞあゆま
きりまははみ町列さうりて思ひくふろろふ
ろろ共十万余騎ふぞろりてあゆまろろひ

の袖とりさうひてく月の子成打くろくあまは
乃五六里ぐ箱うくろりそりきあひを川ざんと
あま天地とむぐく山川とくく計なりび
かとう海乃大名又子勝三子勝列はけく盡
十三日也ひきえさうでぞびうひきり我船ハ
よ及び守唐五天竺太え南蛮もいりて是れわくの
大軍成をこと事ありくくろりし事ありと
思われ人しそなろりきれ

赤坂合戦の事 甘人魁申あきうけの事
ま相ふ赤坂の城へ向ひきり大相阿え強正が海

後凍^{コチ}の瑞とすうらそるるんがうあよ天^{アマ}王^{オウ}さるよあ
日^ヒ暹^{セン}るまで同二月二日午^{コシ}刻^{コク}は矢^ヤ合^カせあうる
ぬき^{ヌキ}けのともむらふをひく^{ヒク}い^イ罹^{ライ}科^カあ^アるるさ
乃^ノ由^ユとそあまられけうあう小^コ武^ブ藏^{ザウ}國^{クニ}の侍^シ人^{ニン}小
人^コ忍^{ニン}入^ニ道^{ダウ}也^ヤんあとりよまのあうけおんあ
中^{ナカ}君^{キミ}九^ク命^{メイ}質^{シツ}貞^{テイ}小^コ向^{コウ}く^ク治^チりきんいみうさ乃^ノ軍^{グン}將^{シャウ}
うん^ウの^ノい^イく^クな^ナま^マは^ハ款^{ケン}凍^{テイ}とせめあ^アる^ルん^ンの^ノ
う^ウさ^サひ^ヒう^ウ一^{イチ}但^タ事^ジ一^{イチ}乃^ノやう^{ヤウ}成^{セイ}業^{ゲツ}さう^ウは^ハ關^{クワン}東^{トウ}三^{サン}下^カ
と^トお^オさ^サめ^メて^テき^キん^ンと^トら^ラる^ルの^ノし^シと^トふ^フ七^{シチ}代^{ダイ}よ^ヨあ^アま
ま^マり^リ天^{テン}乃^ノさ^サう^ウ成^{セイ}り^リく^クの^ノ權^{ケン}の^ノが^ガあ^アる^ルあ^アる^ル一^{イチ}と^ト

上^ウは^ハと^トして^シて^テ志^シと^トる^ルが^ガ一^{イチ}ま^マら^ラ積^{シキ}熟^{ジュク}あ^アふ^フと^トい^イま^マく
そ^ソ身^ミ成^{セイ}り^リあ^アが^ガさ^サら^ラん^ンや^ヤ某^{コト}ふ^フせ^セう^ウの^ノあ^アら^ラり^リと
は^ハた^タ武^ブ藏^{ザウ}と^トあ^アる^ル齡^{レイ}と^トふ^フ七^{シチ}旬^{ジュン}よ^ヨあ^アま^マま^マり^リう^ウふ
よ^ヨり^リ後^{コト}さ^サう^ウ一^{イチ}あ^アら^ラ因^{イン}お^オを^オあ^アさ^サの^ノそ^ソご^ゴろ^ロ小^コあ^アが
り^リき^キ一^{イチ}て^テぶ^ブう^ウん^ンの^ノい^イふ^フう^ウん^ンと^ト忍^{ニン}ん^ンも^モ老^{ラウ}後^{コト}の^ノ
う^ウら^ラ見^ミ候^{コト}終^{シマ}の^ノさ^サり^リた^タさ^サり^リね^ネべ^ベを^オれ^レた^タめ^メ自^ジの^ノ
合^カ戦^{セン}小^コさ^サら^ラけ^ケあ^アて^テ一^{イチ}番^{バン}小^コ討^{トウ}死^シと^トく^クそ^ソ名^ナ成^{セイ}未^ミ
代^{ダイ}よ^ヨ跡^{アト}さん^ンと^ト存^{ゾン}る^ルな^ナり^リと^ト治^チり^リを^オま^マり^リ中^{ナカ}君^{キミ}九^ク命^{メイ}
ん^ン中^{ナカ}よ^ヨけ^ケむ^ムふ^フと^ト思^{オモ}ひ^ヒあ^アう^ウう^ウ志^シよ^ヨう^ウの^ノ事^ジ一^{イチ}成^{セイ}
乃^ノ終^{シマ}ふ^フ者^{シヤ}う^ウな^ナ是^シ種^{シュウ}さ^サう^ウ打^{ウチ}め^メと^トみ^ミの^ノ軍^{グン}小^コそ^ソく^クる

るりさきうけして討死あつりともさうてきる
たいにきまうさまは只某い人あまふあうまふ
るき也とりひきねて人忍よよえぶきうけして
中業乃ちへゆきうらを中るあやみ思ひて人
と付く忍をけまけあうて城を制して石の右
小河事とけあうて一巻書付てをのまう宿へ
ぞゆきう中る丸断されけしそび者い一定の日
さうけせうまねとふゆりなうりきまはまご
よひより打きく只一騎乗とさうて向ひたり
石川河原ゆきとねとよ物さうりのもまよあり

浦乃くこ城忍けまはえんゆあやせうの糧
小白りうけてうげるうる小業うら武者一騎
赤坂乃城とぞ向ひきう何まのやうんとるど打
よせて是と忍まは人見は命入るりたり人忍
中業と見付くりひきうい那夜の結ひ一奉一城
突と思ひきたる孫頼乃人小ごうねうまて浦と
打しうひてぞあうり小るともやめけう中業
小付て今いまがひよえとあうそひり小及む
一取よてめらうのとううしめいどまても回る
さんまうぞよとりひきねて人忍りや及さん

とむる人あく初アトよなり先よなり物持ロダリあくうり
けらぐ赤坂の城ちくくなりをまは二人の志を
る乃けなまどるうんでつけあがり城ホリのさしと打
うりてあぶらもめんもりらほえつきて大番シニシヤクと
あげく名乗ナリをうあま越國サシノの恒人チウ小人見は帝入
乃あん何年ほをりて七十三お程國サロミの恒人チウが
九帝ステ實ヒト生ヒコ年シヨウ廿七ニシチ極キョク念ニョウとわより軍イクサの志チシと
うけてわく祿ロクと戦場チヤウよさううらんを存くお
向ムカつりさまと思オモうん人こあお合アヒてまあまの箱
と由ユ後コノせよと考コトこよよもりりて城シロをめぐり人

てひえうり城シロ中のまのたもと見てさまぞとよ
坂ジツ東トウ武ブ者セイの風情フセイとけは只あま越シニカエ平山ヘイサンが一タニ若ニの
さまうけとほく入イリずてうう山ヤマと思オモうおまの
た也アト初ハツとまうよほぐ皇ミカド氏ウヂをさう一ヒト又マタさ浦ウラと大
名ナとも思オモくもあぶま者マシヤのふてまあ者マシヤ小コ若ニり
合アヒて命イノチうまひて何ナニうせん只タテなきと事コト下のやう
城シロ見ミよとて東トウあサりイと志シめめてむ事コト一ヒトえせは
人ヒト見ミうととまマくク早ソウ且タニうり向ムカく名ナのまは城シロより
矢ヤの一ヒトとを射イおさうわいおくびやうの取イタりか款ケキ
とあまうりりりてを城シロあけはまうりの箱ハコと見

せんとしてまよりとびかりて坂の上るるがそ橋
とさうくともし海り二人の者たごうるの
乃りさよ引そふて木戸城切申とさんと志きり
昌城甲乞ふさりきておさほやぐうの上よりぬ
乃ありがしらく小射きり矢二人のまのともが
ありひふみりげのしらくまを立うりわら申
を人見えもくより討死せんと思ひ立うり事
なまはりくの一足もひくるる命城かきりふ二
人たよ一取めくうれかり乞まで付あこいご
てさこの十念すあつらひぢり二人が首と

とひゆく天玉ちよりらてくるり申同う子息源
内長湯賢忠よしめりり乃ありさ海とくいお
賢忠父が首と一目見て一言とをりこさすあ
なまうこよむせびて居らりわらぐりく思ひきん
ありひとくいふるげうけるふらうなきて只一
人おいでんとすひぢりあやみ思ひてありひ
の袖と引とめ乞いそをりらるるめくひぞ
佐親父をい合戦よさ記けして只名城下の
人よあうまんと計思るうたん父子とを小おつま
てしそ向らせ給ふべきれとも命とけお控あよ

まりおんしやうとけ子孫乃業祀よのこさんと
思ふきうゆ人ふしを人よりう記小討死とけ志
給ふらぬ御らよ思ひこめへ満るる所もまき又
款陳小うけ入る父子たようら死し給ひるも誰
かそ記とけきこまきうそ業成明り梅らつまき子
孫を窮りさうふおとりて又祖乃孝行とあり
り寸乃とけP也依ひんのおまりよ乞也るく
死とた小さんと思ふ志理るまきとまきとま
らせ給くと明くせいしきまけとけ忠あるこ
とおさへくかすくまきうらうらひ成ぬを盡うり

ひざりきていせいし小かりりわとらわく
思ひてお男が首と小神よほくみさうまの
小あさりるる野色へ越きうそ圃小とけ忠今い
とびる人るげまを別お出とま川上まお子の
由お小集り今生の志いようい々ふをわきりれ
命るまけいのお所小あさるあひのぐせい
の満あうを父してい志乃討死仕いし戦場と同
らけの下よむをれて丸おあんやうの同じうて
る小生あやるとるさせ給くとまきくき給ん
とらうあくるまきことた小立かたり石の高石と

過ると思まはれりて父とたふうり死志きり人見
望入乃が書付ありあり是を滅小枝世也
乃相治よと海子へき事よと思ひきりて右の
小ゆひ減らひ切くを血減まで一首とそんよ書
そ人て赤坂乃城へぞ向ひきり城ちくく城わら
所までるよりありらとりさよとさうて赤戸と
こき城中乃人こ小戸るき事ありとよま
りりきり城くちうとさうて共二人城らうのさ海
よ連うかとさうかして雅人ゆくは海りいやと
とひきりて是い今初は滅小向く初死志てあら

中開丸命貸真がらやくし凍同共傍貸忠と甲者
よていさり人乃親の子と思ふおとさきとあら
海をふまよふさうひあきい同とも小初死せん
事とわらうとてまれば小あうせは志てと一
人初死志きりよていあひともあふまのまさく
て甲者乃みらふまよふらんをさうそとあひ
やられよと同初死志くる初初まで父よ孝及と
はくしゆハとやと存て共一騎相向くゆ也城の
大初よび由とすれうて赤戸とひうりまはり
父がうり死乃所ゆくと同命減とよめてそのぞと

と進しあんとりんごんよ事一としひなるといよ
ひせひてぞ立たりきり一乃本戸城のいめより
共又十余人をらごう一乃孝行ありてあひひよ
やさしとあまきさるるといんよて別本戸とひ
さいりきぎ城川のけあははとけ思ふよおのり
城甲へうけ入るよ十余人の勢と大城ありて
ぞより命をうけあふ父がうこれし討てて
とほふくりてうめうふう城をてつうわ
きてうそりせよりの母さうれ父のまけ
を双の弓矢とりめく國のうめふようあゆり

又子息賢忠いうめーるき忠孝の勇士めく家の
うめ小紫名あり人思い年老齡いあまおま
義とありて命城甲ふ事一時とたよせうそく
け三人同時ようり死しわとづけまけあつも
あうねえとあべくるげうわ人いなるりきり
とそふえうけの共ともわけくよ赤坂の城へ
向ひ討死するゆ城落ありきまけ大將別天玉
と打ちくもせ向ひきうが上まき子のほおゆく
るより母り石の鳥居と見給へん丸のまら
花さうねあひ本のさうらうらわと

その名はくげの下の小がれし

と一首のうゝ城書てそ次小島越國の伯人人見

空前年七十三正嘉二年二月二日赤坂

乃城へ向く武田とありせんあ小村死仕果れ

とぞ切さうりきり又右のうゝらと見まは

また志し子城思ふもよまよふらん

比川のちまのこのうらあうべせん

と切きて相控國乃伯人本居九島賢貞がらやく

し源内長清とけ忠生年十八歳正嘉二年仲夏二

日父が志ぐいと枕めて同我陽小命をととめ

果れとぞ書うりきり父子の並義忠臣の賢忠は

二首のうゝよあうりきりてわのい地あうらう

どやう一ふの下の小らちねまとい名いあうせい

うん九天の上小書しさまは今小島うとせさひ

の上小さくおまろ三十一字を思ふ人かんあひ

と流さわいなうりきりちねあわその源正が満

八百金勝乃せいと率ちく赤坂へとよせ城の

空前年うんよのしとく小とりま記て芝村

乃と志とぞあげうりきりそ若山とうとく地

とあうよとさうういを惣よさけ川へへば城三

方いさうタカ高きくヒラ厚風とてあつがしヒラ一箇の
方計ヒラも平地ヒラ小所ホがきそ城ホとひろく深フカくわり
切キツと厚キ乃キひこひ小るいとねりま上小厚キうう
かきさるキべうまはりキるる大キ力キもやキもさキなりた
あやしくキせびるさキやうキぞなきさキまキたキよキせキ大
概キなまは思キひあキるとりてキよキもキはキまキ矢キ面キ小
すキみて城ホ乃ホ中ホへホもホ重ホなりて切キさキとあキが
らんキとキきキるキ城ホ城ホるホいのうホりホりホらんホさホやホう
乃ホ村ホとホをホ矢ホぢホりホとホさホうホてホ思ホふホ積ホ小ホ村ホきホるホ圃
いらホさホのホさホひホしホふホみホひホ死ホ人ホ五ホ百ホ人ホ六ホ百ホ人

討イりイこイさイけイるイ時トキいイなイりイタイりイモイとイをイりイこイまイる
わイらイまイとイ入イ町イへイくイ十イ三イ日イもイぞイせイあイらイりイけイら
乃イ是イ城イ中イがイもイよイりイもイ思イひイタイりイ寄イ小イりイま
乃イ圃イのイ恒イ人イきイらイ河イのイ八イ命イとイりイよイ者イ大イねイしイおイ小
事イもイりイきイらイいイはイ城イ乃イ為イ辨イ力イせイあイあイらイくイ左イ右
さイくイおイらイへイくイ寸イ以イ捕イびイ一イ女イ年イがイ圃イ和イ氣イ河イ内イと
後イ然イあイてイいイくイそイぞイくイ乃イ兵イ糧イとイ短イ入イくイいイかイまイはイ
兵イ糧イをイ左イ右イさイくイつイきイいイまイりイけイくイとイあイわイんイ城
めイぐイらイしイいイよイはイ城イ三イ方イハイ若イ深イくイしイてイ地イよイはイけイ
かイとイ一イ方イ名イ平イ地イとイてイあイらイをイ山イとイ城イくイ隘イうイまイり

うまはりの川を小水ありるをきた思ひぬ小水矢と
りまを水とてさあぐうらきしはげらるる面
あり奉りえはりね小水なりとまてあのうくさん
小はちりる南乃山のおくより地れそこよひ
とあせて城中へ水とけいあぐくおなりせ
あられんまとあめく山乃うー城なりさうせ
ては使ひくりーとPをねて大乃をふをとて人
まとあめめ城へはくきく山のもを一文子小
かり切く思まはれん乃あぐくおのそこふ二丈
あまりの下ふひとあせてあぐり小石とうみ

よふまじのかりうとあひく水城十町のまり
乃かよりしそけうりきうこのあげ水ととあ
られてはハ城中ふあとりーをあぐ軍防は中の
うのあひくをねてはみ月が籠ハ茶葉よとけ
おのの霧状るめ新氣小ううなる地りーあ
あそく面とまらきねた面あうどよせはあまよ
利とゆ原あく大矢と射きり昌進子のやぐう二
とけやきあぐーね城中の矢水とのまて十二日
よるりきねて今ハ精のほきうそくあせぐるさ
市原をたぐりたり死ぐり者ハ二うひゆる

さういふやとを死るんまらりのらと帝力の
いふまらねえ記小打出と款とさうちん思ふ
振うら死せんと城の本声城ひききて同時小打
いどんとさくらと城の中人平野を監入るさう
やうさうりさうさうり神とひきくひきさうい
さうとさう門のさうか志結ひそ今い毛程よカ
つきのどのめえさうはさうまわさう思ふ款よあひ
わらん事ありがさう名えあさ人の仲間下部
ともふうさうれてさうさうさうさうさうさう
アアアアア事さうのやうとあんまらよ若野合

対山の城のさう相さうてさうぶとまらさうあ
國のみさうれさうさうまらさうさうさうさう
城とさうさうさうのさう人よ思さうさうとて
事ありさうさうとある也とさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
城金とて時さうさう事一城さうさうさうさう
みかひ義よ同上てさ目の城死とさうさうさう
さうさうさうさうさうさうのさう中小平野の
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

わあぶや十島とりて事乃やうと為か小平野
キド 本戸はよいて合て捕和泉河内のお園と平けて
クスキイ ツミ ロワチ
威とあつひいし割小一止乃あん城のがまん
キヤミ
小んをうすね款よあうくあうひさび子細糸初
テキ
よ糸うて入あんと仕はあよまぞふ大せいと
トロ
まそとけりされはるら矢とら方のさうひ
サイク
よてうて一矢仕うらあうひを罷科とぞ小ね免
ロラ
まむあうとらうびとのへて隊人は糸へくひ
チロラ
りーのあふまどまとの所定ゆくらくわうく一
チ
矢仕てめがらひ城隊中よううまへまあうひは
チ

ツフナ

と具小りさまゆへとひひけまけ大ね大よら
シヤ
しひて中候あんど乃は書と隊陣小切あらん
ミヤシ
ああは別あんあう城りさういさへまゆあま
スナワチ
合戦とぞやあまう城中小いさうあ二面八
イナ
十二人の自死るんさう命とあまう水小う
コ
せうう人しこさ小皆隊人小隊とぞあうりま
チ
名勝の命を隊射とまとうけおてま川隊人の法
チキ
なまけとて物をうら刀とうばんひとりき手小
コチ
小りまあめて六ううへぞまうしきうううあん
ウチ
乃ともうめびあうは只討死まうりきう者

とも後悔コトノサガをれともうひをる一日と経て糸切よ
 つきあうけ六もろ小軍のめをきて合戦のる
 ともめるまけいらすき神小まうりて人小忍こり
 させよとして六条河原フナノハラよ引切一人を跡さう首
 成もひてうけられきり毛を穿てぞ若野ニホを對山
 小ありのりころ共たを跡イヨあくつともろえとあく
 人よいでんと思ふ者いなりりりり飛ツとゆりく
 すりあわ乃潔ヒラなりとりふ事とあくゆりきり
 六もろのせいをもいともか人しと小をうあぐて
 わり切りきりとせしがりく箱もあくあくコト
 月ろびくろくそあーざあれかさけい人乃乃あ
 あもろあまりりーおろりときりめはく雅カ意小
 まうせてあうまへし武運ブクももやくつさ小くり
 りんらまの道理ドウリとあうあうはふあうる事
 ともあり

太平記巻第六

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The characters are somewhat faded and difficult to decipher, but appear to be a mix of Latin and possibly other characters.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The characters are somewhat faded and difficult to decipher, but appear to be a mix of Latin and possibly other characters.

